

【鶴居村立鶴居中学校 学校だより】

とこしえ



平成30年8月30日(木) 臨時号 発行責任者 福原 克洋

最後まであきらめず努力する姿勢

平成30年度実施 全国学力・学習状況調査結果から

2学期がスタートしました。例年ですと、8月下旬に全国学力・学習状況調査の結果が届くのですが、今年度は7月下旬に届きました。夏季休業中に鶴中の全体的な傾向について分析しましたので、お知らせします。併せて、3年生には個人票を返却します。

全国学力・学習状況調査の結果は、国語A・数学A(主として知識)、国語B・数学B(主として活用)、理科ともに、平均正答率において全国平均を上回る結果となりました。設問ごとの特徴的な結果や生徒質問紙における結果につきましては、以下の通りとなっておりますので、ご参考になさってください。

3年生は、このあと29日(水)の学力テストを経て、9月には学力テスト総合Aが始まります。先日の学活では、今後の進路選択に向けての学習を行いました。学校祭の準備もありますが、希望の進路実現に向けて、弱点を克服する一つの資料として活用してください。また、1、2年生は、3年生の組方法や姿勢を参考に、学習に取り組んでください。

規則正しい生活と宿題・家庭学習の成果

学習状況調査(生徒質問紙)の結果で全道・全国の平均値を上回っている項目

- ・学校の規則を守っている。家で学校の宿題をしている。毎日同じくらいの時間に寝ている。(100%)
- ・自分にはよいところがあると思う。先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う。(90%)
- ・家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使って学習している。(90%)
- ・家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。(80%)

学習状況調査の結果で全道・全国の平均値を若干下回っている項目

- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。(92%)
- 家の人と学校での出来事について話をしますか。(兄弟姉妹を除く)(73%)

*決して低いわけ
ではありません!

- ◇授業の予習・復習に取り組む人の割合が多く、家庭学習の時間や読書の時間も全国平均より長くなっています。教科書をしっかりと活用しながら学習に取り組んでいる様子もつかわれます。
- ◇地域や社会で起こっている問題や出来事に関心をもち、それらをよくするために何をすべきか考える生徒も多いです。また、新聞を読んでいる生徒も全国平均に比べて高くなっています。

各教科の結果より

◇国語、数学、理科の学力状況調査の結果で、全国平均を大きく上回っている項目

<数学>

- ある基準に対して反対の方向性や性質をもつ数量が正の数と負の数で表される事を理解している。
- 四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角錐の体積の1/3であることを理解している。
- 発展的に考え、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直すことができる。

<国語>

- 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する。
- 文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える。□文章の構成や展開について自分の考えをもつ。
- 全体と部分との関係に注意して、相手の反応を踏まえながら話す。

<理科>

- 化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる。
- 神経系の働きについての知識を身につけている。

◇学力状況調査の結果で、全国平均を比較的、大きく下回っている項目

<国語> ■相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く (-8%)

<数学> ■証明の必要性和意味を理解している。(-22%) ⇒裏面に掲載

<理科> ■光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用できる。(-10%)⇒裏面に掲載

理科や数学において、「社会に出たときに役に立つと考えている」「普段の生活の中で活用できないか考えている」と答えている生徒が圧倒的に多く、意欲的に学習に取り組んでいることがうかがわれます。(国語にはこの質問項目がありませんでした。)

□全国平均を上回る成果を出しています。また、全国平均に比べて「調査問題の解答時間がやや足りなかった」と答えている割合が多く、粘り強く問題を解こうとしている姿勢が表れています。

□全般的に、「話し合い活動を通して、自分の考えを広めたり、広げたりすることができている」と答えた生徒も多く、主体的、対話的な授業を目指して取り組んでいた成果が表れてきています。

□国語科においては、「基礎漢字テスト」や朝読書の成果が表れてきています。授業においては、文章の内容を的確に捉え、相手にわかりやすく伝える力の育成を図ります。

□数学科においては、「基礎計算テスト」や授業で基礎基本の定着を更に進めます。今後の授業においては、文章問題や自分の考えを説明したり、証明したりする力をつけるため、多くの問題に取り組ませ、改善を図っていきます。

□理科においては、知識を問う問題や計算問題について、高い正答率が見られました。一方、実験の結果から考えられる疑問点や課題を問う問題で正答率が低い傾向が見られました。授業では、実験結果の考察を丁寧に行っていきます。

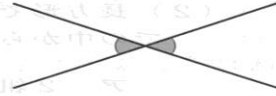
※国語と数学の授業はもちろんのこと、全教科において授業の目標をはっきりと明示し、根拠を説明したり、自分の考えを書いたりする活動の充実を図っていきます。

※2学期は、校内研修(授業研究)を通して、更に「主体的・対話的な学び」の充実を図っていきます。なお、理科については、3年に1回の実施となります。次年度は初めて英語の調査があります。

裏面もご覧ください

鶴居中学校で正答率の低かった問題

8 ある学級で、「対頂角は等しい」ことの証明について、次の①、②を比べて考えています。



①
下の図のように、対頂角 $\angle a$ と $\angle b$ について、

$\angle a + \angle c = 180^\circ$ から、 $\angle a = 180^\circ - \angle c$
 $\angle b + \angle c = 180^\circ$ から、 $\angle b = 180^\circ - \angle c$
 よって、 $\angle a = \angle b$
 したがって、対頂角は等しい。

②
下の図のように、対頂角 $\angle a$ と $\angle b$ について、 $\angle a$ と $\angle b$ の大きさをそれぞれ測ると、

$\angle a = 60^\circ$
 $\angle b = 60^\circ$

また、2つの直線の交わる角度を変えて、同じように測ると、
 $\angle a = 40^\circ$ のとき $\angle b = 40^\circ$
 $\angle a = 90^\circ$ のとき $\angle b = 90^\circ$
 $\angle a = 110^\circ$ のとき $\angle b = 110^\circ$
 よって、 $\angle a = \angle b$
 したがって、対頂角は等しい。

- ①、②がそれぞれ「対頂角は等しい」ことを証明できているかどうかについて、正しく述べたものを、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。
- ア ①も②も証明できている。
 - イ ①は証明できているが、②は証明できていない。
 - ウ ①は証明できていないが、②は証明できている。
 - エ ①も②も証明できていない。

出題の趣旨：証明の必要性和意味を理解しているかどうかをみる。

(正答) イ

1 演説などの際に使うことがあるテレプロンプターについて、理科の授業で科学的に探究しました。
 (1)と(2)の各問いに答えなさい。

テレプロンプターのモデルをつくる場面



先生：光の反射を利用したテレプロンプターは、話し手からは文字が見えて、聞き手からは文字が見えない機器です。
 タブレット型のコンピュータと半透明の板を使って、テレプロンプターのモデルをつくり、光の進み方について学習していきましょう。

生徒：図1のようにすると、半透明の板に「あ」を表示することができました。

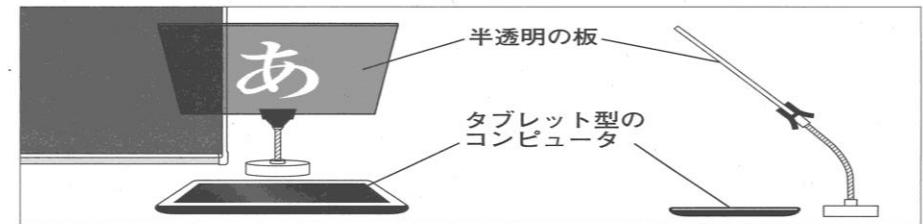


図1

(1) 図1のように「あ」を半透明な板に表示したとき、タブレット型のコンピュータの画面として適切なものを、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。



出題の趣旨：光の反射を利用した「テレプロンプター」のモデルを使って科学的に探求する場面において、光の直進や反射の幾何学的な規則性についての知識・技能を活用することができるかどうかをみる。

(正答) イ